

研究会 アクアメタル ヒト臨床実験で有意差確認 寝具・住空間へ普及に期待

アクアチタンのリラックスマット効果

ヒト臨床実験で有意差確認

寝具・住空間へ普及に期待

健康器具メーカー・フアイテンの水溶性メタル「アクアチタン」の作用



会見する吉川代表(右)と筆頭著者の青井氏

青井氏

この中では、

昨年12月に医学分野で世界的権威のある国際学術誌に掲載された論文の基となるヒト臨床実験の内容などを説明した上で、

「アクアチタンはヒトに対してよりリラックス効果があることが認められた」と強調、寝具や住空間などへの有用性を指摘した。

この学術論文は「チタン処理環境は、日常的に感情的ストレスを有する事務職員において自律神経系調整に関連する精神的ストレスを軽減する」

のタイトルで、青井渉京都府立大学大学院生命環境科学研究科助教を中心に、同研究会の吉川代表やフアイテンの石浦康雄氏、バイオメーカーサイエンスの内田景博代表ら合計9人が共同で執筆した。

同論文は、昨年12月25日にアメリカを拠点を置く出版社が発行した学術雑誌「Psychology & Behavior」2012 Volume 108」に掲載されており、この中には、ヒト

を対象に実施した臨床実験の内容とともに、アクアチタンがストレスの緩和や自律神経バランスの正常化に影響を与えているとの考察などを盛り込んでいる。

論文の根拠となるヒト臨床実験は、客観的な結果を出すことができる「無作為二重盲検法」を用いて実施。具体的には▽年齢40〜65歳以下、BMI(体格指数)19・0

▽30・0未満(標準)▽肥満▽▽心理学的・生理学的ストレスを自覚し、睡眠障害を訴えている者▽正規被雇用者(肉体労働者を除く内勤者で家庭を持つ者)▽の男性24人を実験対象として選定した。

実験では、これらの被験者を無作為に二分し、通常の仕事後にアクアチタン含有のパーテーションや床マット、シーツで構成する「チタンルーム」と、チタンを含まない「プラセボルーム」にそれぞれ5泊してもらい、主観的疲労度、血中ストレスホルモン、自律神経活動などを測定した結果、いずれもチタン群で有意にリラクゼーション効果が表れたとしている。

この日の会見には、同研究会の吉川代表と論文筆頭著者の青井助教が出席。吉川代表はアクアチタンを含有させた建材などで室内空間を構成するフアイテンルームのユーザーから得られた疲労回復や熟睡といった感覚が「エビデンスとして科学的に裏付けられた」と成果を強調するとともに、「さまざまな応用が考え

られる」として普及への期待感を示した。

また、今後の取り組みについては「老人ホームや合宿所、宇宙船内など、食事やストレスの状況が一定した条件を持つ空間で実験することができれば、より多くのデータが

得られる。広がり期待したい」との考えを述べたほか、青井氏は実験のポイントとして「ストレスを感じた場合のみ、その食事を摂る効果があるのではないか」という感触を得ている」と話した。

「さまざまな応用が考えられる」として普及への期待感を示した。

また、今後の取り組みについては「老人ホームや合宿所、宇宙船内など、食事やストレスの状況が一定した条件を持つ空間で実験することができれば、より多くのデータが